進路だより

題字
志垣嘉納子
第二高校進路指導部編集
令和２年度
第３号（通巻122号）

進路だよりを振り返って伝えたいこと

三年学年主任　徳　永　豪　男

「進路だよりを振り返って伝えたいこと」

三月一日、五十七期生の卒業式が終わりました。これまで一・二年生の生徒諸君や多くの先生方に大変お世話になり卒業を迎えることができたことを心から感謝申し上げます。また、保護者やりんどう会の皆様にも厚くお礼申し上げます。この三年間を卒業生と共に過ごしてきた立場として振り返ってみます。

「五十七期生の学年テーマは玲瓏」

三年前初めての学年集会で、学年目標「玲瓏（れいろう）」を紹介した。～いろいろな場所で玉のように輝く人材と成れ～玲瓏は、八面玲瓏という四字熟語からとったもの。意味は、「どこから見ても透き通っていて、曇りのないさま」、「だれとでも円満、巧妙につきあうことができるさま」である。校歌二番の歌詞にも登場する。これから始まる高校生活を学業や部活動、校内外の場面で充実させていこうと伝えた。私は、このテーマを三年間継続し、しっかりと生徒たちに浸透できたと感じている。

この最初の主任挨拶から、必ず集会においては原稿を作成した。年間に八回～十回ほど学年主任から話をする機会がある。その内容は、今の生徒たちに伝えたいことや学校生活で気がついたこと、これから目指して欲しいことなどを五分位内で伝えるように努めた。一年時の原稿の総文字数六八四四字（原稿用紙一七・一枚）・二年時七五六三字（原稿用紙一八・九枚）・三年時七八一七字（原稿用紙一九・五枚）となり、学年が上がるにつれ、字数も増加。理由は、コロナ禍を一緒に乗り越えようという言葉や大学入試改革による生徒たちの不安を取り除く内容が含まれるようになったからだろう。この原稿は、毎年の進路だよりの作成にも活用できた。これは私にとって、五十七期生と共に過ごしてきた証であり一生の宝物となった。この一部を一・二年生に向けて紹介する。

「習慣について」

君たちは、高校受験を通して経験した努力とそのポテンシャルとを十分に発揮しなければ、将来に向けて輝く人材にはなれない。玉は磨かなければ、ただの石である。ある大学の教授が大学一年次の学年成績が、大学四年次の最終成績と比例する傾向が強いと言っていた。これは、一年間で身につけた習慣は一・二年後に繋がるということであり、早い段階で悪い習慣、すなわち「学力向上を阻害する習慣」を身につけてはいけないということであろう。また、目的を達成した人は常に習慣を大切にしている。私は、「自制心を持たなければ、成功は収められない」、「勝者は、勝ちと引き換えに苦しい努力を積み上げなければ勝利を掴めない」という経験を信条としている。自己の生活を振り返り習慣の再点検をして欲しい。

「自主積極について」

三綱領の「自主積極」という言葉を胸にきざみ、行動の選択をする時は、自分が経験したことがどのように成長できるかを考え、遠慮せずに心の片隅にある気持ちに従い行動しなさい。例えば部活動を頑張る、式典リーダーをやる、大学のオープンキャンパスに参加する、資格試験に挑戦する、海外留学へ行く、明日の模試を全力でやる、授業に集中する、それがきついこと、難しいことかもしれないけれども、未来につながる意思決定をして欲しい。

「タイムスケジュールと心の大切さ」

品物（お金）の浪費は節約すれば補えても、時間の浪費は取り戻せない。時間の使い方を工夫すること。日々の生活を計画的に過ごして欲しい。また、学校生活を充実させ楽しく過ごすことができているのかを考えて欲しい。この学校が、居心地が良く行きたい学校（集団）にすることができるのは、先生でも卒業生でもなく親でもない。君たち自身の心のあり方が大切である。

「こつこつが大事」

兀兀地の紹介。こつこつと努力する人が一番強い。無我無心のこつこつは、足が地面についてくる。こつこつに地がつくと、ごつごつちと読む。二年生にとって二学期は、学校生活で重要な時期である。また、高校生活三年間の残り一年半（後半）であり、授業でも模試でも進路実現に直結する。兀兀地を心がけよう。

「三年十二月
玲瓏になっている五十七期生」

三年生にまだ暗い朝の六時過ぎに登校し、朝課外前に教室で自学をしている人や進路指導室の前で先生に質問をして学びを深めている人がいる。さらに休日の教室開放を利用して一日中黙々と学習に励む人や昼休みに食事の時間も惜しんで学習に励む人がいる。先生方と面接や小論文の指導を熱心に励んでいる人がいる。その他にも見えないところで頑張っている人もいる。君たちは、先輩たちが伝統としてきた二高生としての学びの行動をしっかりと引き継いで、貴重な時間を過ごしている。将来、この時間を乗り越えた者だけが味わう何かがあると私は思う。それこそが「本物の玲瓏」となるはずだ。しかし、君たちの中には自分がどんなに時間を費やしても、達成感や成長を感じられずに焦っている人がいるかもしれない。結果にばかりとらわれるのではなく、その過程を大切にして欲しい。初めての共通テストで不安を抱いているのはみんな同じ。君たちが、自分で決めて行ってきたこれまでの学習を試験当日までやり遂げよう。最後まで継続し本物の玲瓏を完成させよう。

「可能性は無限」

五十七期生は、大学入学共通テストの記述式の廃止や英語外部検定試験導入の見送りなど入試改革で大きく揺れた学年であった。このような困難な状況でも、君たちがやるべきことは学力をつけること。私はこの三年間で、五十七期生の「素直さ」「真面目さ」を見ることができた。そしてこれからも、その良さは確実に後輩たちが引き継いでいくであろう。君たちの可能性は無限だ。私は君たちを信じている。

「おわりに」

新年度を迎える五十八期生と五十九期生には、これまでと同じく多くの先生方のご指導と絶大なる信頼、保護者のバックアップがあります。それらを受け止め、君たちの持っている力が満開の桜のように開花し、さらに飛躍できる一年であることを確信しています。玲瓏たれ二高生。

大学入試中間報告

令和３年度大学入学共通テスト試験過年度比較

（５教科７科目または６教科７科目）

		令和３年度		令和２年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度	
段階	得点率	度数	累積	度数	累積	度数	累積	度数	累積	度数	累積	度数	累積
840 ～		0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
830 ～ 839		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
820 ～ 829		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
810 ～ 819	90%	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
800 ～ 809		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
790 ～ 799		0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0
780 ～ 789		0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0
770 ～ 779		0	0	0	0	1	1	1	3	3	4	0	0
760 ～ 769	85%	0	0	0	0	0	1	0	3	1	5	1	1
750 ～ 759		1	1	0	0	4	5	0	3	1	6	4	5
740 ～ 749		2	3	0	0	0	5	1	4	2	8	0	5
730 ～ 739		0	3	2	2	2	7	2	6	8	16	0	5
720 ～ 729	80%	2	5	2	4	5	12	2	8	0	16	0	5
710 ～ 719		2	7	3	7	5	17	4	12	2	18	3	8
700 ～ 709		3	10	5	12	4	21	11	23	9	27	5	13
690 ～ 699		3	13	3	15	2	23	7	30	2	29	5	18
680 ～ 689		5	18	5	20	6	29	8	38	3	32	9	27
670 ～ 679	75%	8	26	2	22	4	33	10	48	11	43	7	34
660 ～ 669		8	34	3	25	12	45	5	53	5	48	7	41
650 ～ 659		10	44	7	32	10	55	10	63	5	53	7	48
640 ～ 649		10	54	10	42	17	72	8	71	9	62	15	63
630 ～ 639	70%	7	61	7	49	9	81	20	91	12	74	16	79
620 ～ 629		10	71	9	58	17	98	8	99	12	86	19	98
610 ～ 619		12	83	7	65	13	111	23	122	20	106	16	114
600 ～ 609		12	95	16	81	13	124	20	142	15	121	8	122
590 ～ 599		8	103	11	92	12	136	12	154	7	128	20	142
580 ～ 589	65%	12	115	6	98	10	146	14	168	16	144	10	152
570 ～ 579		17	132	17	115	14	160	16	184	18	162	16	168
560 ～ 569		21	153	9	124	13	173	14	198	14	176	17	185
550 ～ 559		25	178	24	148	15	188	9	207	17	193	15	200
540 ～ 549	60%	21	199	13	161	26	214	19	226	12	205	14	214
530 ～ 539		13	212	14	175	17	231	19	245	15	220	10	224
520 ～ 529		16	228	16	191	23	254	10	255	11	231	13	237
510 ～ 519		19	247	23	214	11	265	18	273	8	239	15	252
500 ～ 509		13	260	11	225	14	279	15	288	17	256	16	268
490 ～ 499		9	269	14	239	19	298	16	304	13	269	10	278
480 ～ 489		18	287	19	258	8	306	10	314	15	284	9	287
470 ～ 479		10	297	14	272	4	310	7	321	14	298	10	297
460 ～ 469		7	304	9	281	9	319	6	327	7	305	11	308
450 ～ 459	50%	6	310	17	298	3	322	6	333	10	315	12	320
440 ～ 449		9	319	17	315	6	328	7	340	9	324	6	326
～ 439		56	375	72	387	60	388	59	399	66	390	65	391
本校受験者数			375		387		388		399		395		391
本校平均点			536.2		519.4		546.0		550.8		546.6		542.5
全国平均推定含既卒	文系				558.5		580.1		562.8		556		547
	理系				568.4		586.8		575.1		562		564
本校国公立合格数					206		219		257		253		269

令和３年度大学入試共通テスト（1月16日・17日実施分）受験者数・平均点一覧（公表値）

※国語は200点、理科①は50点、他は全て100点満点

教科名		科目名	受験者数	平均点
国語（200点）		国語	457,305	117.51
地理歴史（100点）		世界史A	1,544	46.14
		世界史B	85,690	63.49
		日本史A	2,363	49.57
		日本史B	143,363	64.26
		地理A	1,952	59.98
		地理B	138,615	60.06
公民（100点）		現代社会	68,983	58.40
		倫理	19,955	71.96
		政治・経済	45,324	57.03
		倫理、政治・経済	42,948	69.26
数学	数学①（100点）	数学Ⅰ	5,750	39.11
		数学Ⅰ・数学A	356,493	57.68
	数学②（100点）	数学Ⅱ	5,198	39.51
		数学Ⅱ・数学B	319,697	59.93

教科名		科目名	受験者数	平均点
理科	理科①（50点）	物理基礎	19,094	37.55
		化学基礎	103,074	24.65
		生物基礎	127,924	29.17
		地学基礎	44,320	33.52
	理科②（100点）	物理	146,041	62.36
		化学	182,359	57.59
		生物	57,878	72.64
		地学	1,356	46.65
外国語	【筆記】（100点）	英語	476,174	58.80
	【リスニング】（100点）	英語	474,484	56.16

総合型選抜入試＆学校推薦型選抜入試トピックス

進路指導部　城本建雄

今年度、総合型選抜入試及び学校推薦型選抜入試には、国公立大・私立大学併せて過去最多の百二十九人の生徒が挑戦し、三十一大学に六十人が合格した。今年度の合格状況は下表のとおりである。

本校における総合型選抜入試及び学校推薦型選抜入試の受験者は年々増加傾向にある。全国的にも受験者が増加しているとは言え、合格率が五〇％を切ったのは二度目であり、厳しい結果となった。

ここでは、総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試の現状と今後の入試改革、本校における基本的な指導方針を述べる。

★募集定員枠は広がる

今年度、学校推薦型選抜入試を実施したのは、国立大が八十二校中七十六校、公立大が九十一校中九十校で、総合型選抜入試を実施したのは、国立大が五十四校、公立大が二十八校であった。また、私立大学では、総合型選抜入試が八三％の大学で、学校推薦型選抜入試が八八％の大学で実施されている。

二〇二〇年度入試からは、総合型選抜入試と学校推薦型選抜入試の合計の定員枠の上限が五〇％へ引き上げられたので、国公立大学でも推薦枠の拡大が徐々に進行しており、二五％～四〇％の枠を設定する大学が増えている。

★二〇二〇年度入試改革

二〇二〇年度からの大学入試改革により、前年度までのＡＯ入試と推薦入試について選抜方法と名称が変わった。

従来のＡＯ入試は知識・技能の習得状況に過度に重点を置いた選抜基準としない方針だったが、新ルールでの名称は「総合型選抜」となり、共通テストや大学実施の学力試験等の評価が必要になった。推薦入試でも、従来は学力検査が免除される場合があったが、名称が「学校推薦型選抜」となり、学力試験等の評価とともに推薦書に「学力の三要素（①『知識・技能』、②『思考力・判断力・表現力』、③『主体性・多様性・協働性』）」に関する評価が記載されるようになった。

大学によっては「プレゼン」や「教科の理解を問う小論文試験」や「口頭試問」等も課されるようになっている。

★「多面的・総合的な評価」へ

この新ルールにより、高校で作成される調査書も改良され、生徒の多様な学習や活動履歴を記載する欄が拡充され、受験生本人が高校での「活動報告書」を記入し志望校に提出する大学も増えている。一般入試でも「面接」の導入や「志望理由書」の提出が必要な大学・学部が増える傾向にある。

これからの大学入試選抜では学習成績だけでなく、部活動やボランティア活動、特別活動等もこれまで以上に評価・活用されることになる。

二〇二〇年度以降、大学入試の多様化は必至であり、大学受験を目指す一、二年生は変化する情報に対してアンテナを張り、多様な機会を活かす姿勢が求められる。

●推薦入試は高校と大学との信頼関係の上に成り立つ。

出願に際しては、大学の定める推薦条件だけでなく、本校での厳正な校内審査をクリアしなければならない。校内審査の観点は主に次の三点である。

①生活態度が良好である（指導を受ける場面が少ない）。

②出席状況が良好である（欠席・遅刻が少ない）。

③学業成績が良好である（評定「２」があれば原則として不可）。

●「チャンスが一度増える」、「早く進路を決めたい」などの安易な考え方は危険。

総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試は本校でも増加傾向にあるが、安易な考え方は非常に危険である。その理由は次の三点である。

①成績が伸びる二学期を書類作成や面接・小論文対策に割くことになる。

②不合格の場合、気持ちの切替えが困難な者も多い。

③早期の進路決定が、本人の可能性を狭めることもある。

【補足】共通テスト後に出願する推薦入試は、特に限られた短い時間で準備することになる。

●総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試を受験する者は、合否にかかわらず、共通テストを受験し、二次対策授業を受講する。

本校では、総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試を受験する者の学力を保証するため、共通テストの受験と二次対策授業の受講を奨励している。その理由は次の三点である。

①一般入試で合格した者との学力差を生じないようにする。

②最後まで努力を続けてきた者は、万一不合格になっても気持ちの切り替えができる。

③二高生の大半が一般入試で受験する。総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試の合格者も、全体の雰囲気を大事にしながら自己研鑽に励む。

従来から、推薦入試等の合格者は大学入学後の学力不足を問われることが多い。二高生は毎年、総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試の合格者も最後まで勉強に励み、自らを高めるとともに、周囲にも様々な好影響を与えており、大学入学後の評価も高い。

令和３年度　総合型・学校推薦型選抜入試合格状況（57期生）

大学名	選抜型	学部学科等	合格者数
筑波大	学校型	芸術学群	2
東京学芸大	学校型	教育　初等教育	1
		教育　中等教育	1
信州大	学校型	医　看護	1
京都教育大	学校型	教育　芸術	1
和歌山大	総合型	観光	1
岡山大	学校型	文　人文	1
九州大	総合型	共創	1
		芸術工　インダストリアルデザイン	1
福岡教育大	学校型	教育　初等教育	1
長崎大	学校型	教育　小学校教育	1
大分大	総合型	福祉健康科学　心理学	1
		医　看護	1
熊本大	学校型	教育　小学校教員養成	2
		教育　特別支援教育	2
		工　機械数理工	2
		工　情報電子工	2
		工　材料・応用化学	2
		医　検査技術	1
		薬　創薬／生命薬	1
鹿児島大	学校型	法文　法学	1
		医　保健一看護	1
国立大学計			28
静岡文化芸大	学校型	デザイン　デザイン	1
広島市立大	総合型	芸術　デザイン工芸	2
尾道市立大	学校型	芸術文化　美術	1
熊本県立大	学校型	総合管理　総合管理	2
公立大学計			6
国公立大学計			34
東京理科大	学校型	理工　建築	1
早稲田大	学校型	教育　公共市民学	1
立正大	総合型	仏教　宗学科	1
工学院大	学校型	情報　情報デザイン	1
京都芸術大	総合型	芸術　こども芸術	1
		芸術　絵画	1
		芸術　日本画	1
立命館大	学校型	経営　経営	1
関西学院大	学校型	社会	1
帝京大	総合型	福岡医療技術　診療放射線	1
九州産業大	学校型	芸術　ビジュアルデザイン	1
西南学院大	学校型	外国語　外国語	1
崇城大	総合型	芸術　デザイン	1
		芸術　洋画	1
	学校型	芸術　デザイン	1
熊本保健科学大	総合型	保健科学　医学検査	1
		保健科学　看護	1
		保健科学　言語聴覚	1
	学校型	保健科学　医学検査	1
		保健科学　看護	3
		保健科学　理学療法	1
		保健科学　言語聴覚	1
熊本学園大	学校型	商　ホスピタリティ・マネジメント	1
		社会福祉　子ども家庭福祉	1
私立大学計			26
総合型・学校型推薦　選抜入試　合格者合計			60

過去10年間の総合型（AO）・学校型（推薦）選抜入試合格者の推移

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R１年度	R２年度	R３年度
国立大学	39	38	38	33	34	51	45	46	32	28
公立大学	9	14	13	4	10	9	9	13	9	6
私立大学	2	6	2	4	10	17	17	15	25	26
合計	50	58	53	41	54	77	71	74	66	60
受験者	93	112	96	68	115	142	115	104	121	129

合格体験記

九州大学　共創学部
総合型選抜入試合格

三年三組　島﨑亜季子

私は総合型選抜(旧ＡＯ入試)で九州大学共創学部に合格をいただきました。自分の受験を通して、私が重要だと思ったことを大まかに二つお伝えしたいと思います。

ひとつ目は、一、二年生のうちに色々な経験を積んでおくということです。高校時代の経験が自分の世界を広げてくれることはもちろん、最終的には受験の形態の選択肢も広げてくれます。私自身、一、二年生の時の経験のおかげで総合型選抜や推薦などを視野に入れることができました。感染症の影響で留学や催し物が多く中止になってしまっている状況ですが、その分オンラインでより気軽に参加できるものも増えています。できるだけ前向きに色々なものへの参加を検討してみてください。

そして何かを体験した後は、必ず感想や考えたことを書いておくことをお勧めします。私はこまめに記録を残しておらず、受験前にとても後悔しました。志望理由や面接での受け答えを考えるうえで、自分の考えや気持ちの記録はとても役に立ちます。もちろん後から思い返してまとめることもできますが、その時だとより良いことを書こうと思ってしまい自分らしさの少ない文章になってしまいます。自己分析をする際にも役に立つと思うので、ぜひ一冊ノートを作ってみてください。

ふたつ目は、一年生の時から定期テストに真剣に向き合っておくということです。定期テスト前に急いで詰め込んでも受験前にはどうせ忘れてしまうのに、と感じることも多いと思います。しかし実際三年生になって受験勉強を進める中で、定期テスト前にしっかり復習していた分野はより早く思い出せることがわかりました。定期テストのためにしっかり対策をしておくことで、受験勉強をより楽に速く進めることができます。二年後、一年後の自分に投資すると思ってテスト勉強を頑張ってほしいと思います。

経験は受験形態の選択肢を、勉強は大学の選択肢を大きく広げてくれます。今志望校が決まっている人もそうでない人も、三年生の自分により多くの可能性を残しておくためにどちらも頑張っておいてほしいと思います。皆さんの進路実現を心から願っています。

最後になりましたがこうして私が合格することができたのも、たくさんの人の応援と支えがあったからです。お忙しい中で面接や小論文、レポートの対策にたくさん時間を割いてくださった先生方、温かく見守ってくれた家族や友達に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

筑波大学　芸術専門学群
学校推薦型選抜入試(Ⅰ)合格

三年Ａ組　矢野世怜那

私は学校推薦型入試で筑波大学芸術専門学群に合格を頂きました。私は今回、学校生活と受験対策の二つの視点で大切だと感じたことをお伝えしたいと思います。

まず、学校生活についてです。この項目で一番に伝えたいことは、チャレンジすることが大切であると言うことです。私は高校入学時に、美術科美術部と同時に吹奏楽部に入部しました。たくさんの方に支えて頂きながら、学業と美術と吹奏楽の三つを同時にこなしていました。多忙を極め両立をしんどく思う日も少なくありませんでしたが、それ以上にスケジューリング能力や美術的感性とは違う音楽性を得ることで、自分の可能性を広げる貴重な経験をすることができました。また、ボランティアやワークショップなどに積極的にチャレンジすることも大切です。たとえ自分が興味を示していないジャンルであっても、自分のフィールドを広げる経験と知識を得ることができます。

推薦入試などでは高校生活で活動してきたこと全てが武器となります。私も面接の際、この経験を評価して頂きました。日頃の学業を前提として、たくさんのことにチャレンジしてみてください。

次に、受験対策についてです。受験では情報収集が重要となります。情報収集をし、その進路先の傾向や求めている人材を分析してください。私は、先輩方の合格体験記や受験報告書、大学の過去問やアドミッションポリシー、学長が発信している文書や教授たちの論文の内容などを読み漁っていました。情報を集めることで、その大学が欲している人材や入試の傾向が掴めます。そこから自分が身につけるべき能力を見極め、対策していくことが大切です。実際に私も先輩方の受験報告書を参考に入試当日をイメージしていたおかげ

で、本番は過度に緊張することなく実力を発揮できたと思っています。

最後に、受験に不安になることがあると思いますが、今ある一日一日を大切に過ごしていくことが結果的に自信へと繋がります。また、私は先生方や家族、友人の支えがあって乗り越えることができたと思っているので、一人だと思わず目標に向かって頑張ってください。

長崎大学 教育学部 学校推薦型選抜入試(Ⅱ)合格

三年六組　郷　恵達

私は学校推薦型Ⅱで、長崎大学教育学部小学校教育コースに合格することができました。

この推薦は十一月に面接、さらに一月に実施される共通テストで六割(五百四十点)以上が必要となります。

まず出願と面接試験を受けるにあたって、志望理由書を作成しなくてはいけません。そのために志望校や教育問題について、深く調べる必要があります。また第二高校の三年間での学びがどのように大学での研究に生かすことができるかを伝える必要もあるので、一、二年生の頃からGRなどの課題研究の取り組みを大切にしてください。そして、関わっていただく先生方のアドバイスを参考に、自分自身の目標への信念と志望学部へのこだわりが詰まった志望理由書を作成してください。

私は下宿生で家事もしないといけない状況であったため、下宿での勉強は最小限に抑え、学校での隙間時間を使って勉強する習慣を身に付けました。三年生になってからは、友だちと毎朝六時半に学校に来ることを約束し、朝課外前の早朝学習に取り組みました。また夜は十時半まで集中して勉強することを決めて、睡眠時間を確保し、翌朝に備えました。特に力を入れて取り組んだのは、模試のやり直しによる苦手分野の克服です。模試での間違いは自分の苦手分野を発見する良い機会です。三年生になると毎月のように模試が実施されますが、できる限りすぐにやり直しをしてください。私は共通テスト本番の一週間前は新しい問題には手を付けず、やり直しノートを何度も繰り返し見直しました。共通テストでは目標を大幅に上回る点数を取ることができました。これは地道な復習の成果だと確信しています。

受験を通して再認識したことは、最後まで自分を信じ努力し続けることの大切さです。私はマーク型の模試で、六割以上の点数を一度も取ることが出来ずに本番を迎えました。それでも「これだけやったから大丈夫」と自分に言い聞かせ、本番では自己ベストを大きく更新しました。

皆さんが来年笑顔で春を迎えられることを願っています。頑張って下さい。

熊本大学 薬学部 学校推薦型選抜入試(Ⅱ)合格

三年六組　藤岡　凌馬

私は学校推薦型Ⅱ（センター試験を課す推薦入試）で、熊本大学薬学部創薬生命薬科学科に合格を頂くことができました。

私は三年生になってからも、朝読書の時間を大切にしていました。三年間の朝読書の積み重ねで視野が広がり、また推薦入試を受けるにあたり、志望理由の作成や面接の受け答えでの言葉選びにおいても生かされたと思います。

受験にあたって皆さんに言いたいことは、志望校を早い段階で決めて、最後まで貫くことが大事だということです。私はモチベーションの維持を大切にしていました。将来どのような自分になりたいかを常にイメージして、絶対に第一志望の合格を勝ち取る気持ちで勉強をしていたら、結果はついてくると思います。

勉強について心掛けたことが二つあります。

一つ目は暗記についてです。私は理科と社会について模試や問題演習で一度間違えた問題をやり直しノートにまとめていました。自分の苦手分野を把握した上で、さらに苦手分野の教科書を読み返しました。この取り組みを徹底して繰り返したおかげで、苦手意識のあった理科と社会を得意科目だと言えるようになったと思います。

二つ目は計画についてです。私は短期間の計画を立ててノルマを設定し、それをクリアすることを楽しみにしていました。例えば「次の模試までに数学と英語を十点ずつあげて合計二十点あげる」などの小さい目標を立て、そこまでの一日や一週間のノルマを決めて、勉強していました。ノルマを決めることで中だるみをせず、一定のペースで勉強できたと思います。

以上のことは私の経験なので、すべての受験生にあてはまることではありません。しかし、後輩である皆さんが、成績が伸びずに悩んだ時などに参考にしてくださると嬉しいです。最後まで諦めずに頑張り抜くと、必ず合格できると思います。健闘を祈ります。

合格者の志望理由書には何が書かれているのか

進路指導部　西本達哉

⑴「自分」を書く。

推薦入試の受験において「志望理由書」はとても重要な書類です。それ自体が評価の対象であったり、面接の参考資料になるもので、選考する大学側は「志望理由書」から受験生の熱意、思考力、表現力、人間性、適性を判断します。つまり「志望理由書」は自分を合格に導く重要なレポートと言えます。

では、志望理由書はどのように書くのでしょうか。ポイントとして次の５点を挙げます。

①自分の将来像

②大学で学びたいこと

③志望動機

④他の大学ではなく、その大学でなければならない理由

⑤大学が求める学生像と自分

志望理由書には「自分」を書くのですから、自分を分析できていて将来像が持てているのかが大切です。将来の目標の実現に向けて大学でどのような学びをしたいのか。学びの場がなぜその大学なのか、根拠が示され自分の「現在→大学→将来」の繋がりが見える志望理由書が求められます。その紙面に「自分」を表現できていることが志望理由書の必要条件なのです。

⑵「相手」を知る。

大学は欲しい人材をアドミッションポリシーで明確化しています。いかに自分がその人材として適しているのかを示したいものです。そこにあなたが高校時代にどのように学び、どのような活動に取り組んだのかを伝えるのです。そのためには志望する大学・学部・学科に関する情報を知っておく必要がありますし、今、様々な活動に積極的に取り組めていることが必要でしょう。相手を知り、自分に繋げる。つまり、志望理由書で「自分」を表現する際に、(1) アドミッションポリシーのどの内容に基づいて受験するのか。(2) 自分の良さ（売り）がどこに該当するのか。この２点をはっきりさせるのです。漠然とした記述では、あなたの魅力が伝わりませんので競争力を持ちません。１・２年生の皆さんは主体的に志望校を研究し、後に文章化できるほどの密度の高い学校生活を送ってください。

先輩が書いた熊本大学工学部材料・応用化学科への志望理由書を見ていきましょう。「志望した理由及び入学後学びたいことについて800字以内で記入」することが条件です。

> A 私が貴学を志望する理由は、医薬品の強い副作用の問題に関心があり、患者さんの負担を少しでも軽くするために副作用が最小限に抑えられた医薬品の研究・開発を行う研究者になりたいと考えるからです。
>
> そう考えるようになったきっかけは化学の授業で身のまわりのものに化学という分野が大きく関わっていることを知り、その中でも特に医薬品や機能性食品の成分と効果に興味を持ったことです。そして実際に薬を服用したときに眠くなるなどの副作用や効き目に差があることに気付き、よく効き副作用が少ない薬ができないかと考えるようになりました。後に、応用化学という分野を知り、この分野を通して医薬品を原子レベル(B)で分析・改良することで優れた機能性を備える医薬品の開発に携わりたいと思うようになりました。
>
> 副作用の軽減につながるDDSの研究においてエクソソースや核酸等、有効な物質は発見されているが、患部への運搬が困難であるために実用化に至っていないものがあります。そこでバイオテクノロジー等を用いて物質を分析・研究することで、課題とされている血液中での分解等を克服した物質を開発できると考えています。
>
> 現在、多くの先進国では高齢化が進んでおり、中でも日本はその傾向が顕著な国です。そのため、今後は高齢者に対して医薬品を使う機会が増えると考えます。私はDDSをはじめ医療に関する様々な研究をされている貴学で学び、そこで得た技術・知識を活かして将来はバイオテクノロジーやナノテクノロジーを用いて、DDSの困難性や副作用等の課題を克服した高効果で高齢者の身体に優しい医薬品を開発したいと考えています。
>
> C 国際基準の環境や安全に対する知識を学ぶことができる貴学で学ぶことにより、専門知識だけでなく、今後のグローバル社会で活躍できる知識・技術・思考力が養われると考え貴学を志望します。
>
> ※【DDS】
>
> ドラッグデリバリーシステム（drug delivery system：DDS）の略で、体内での薬物分布を制御することで、薬物の効果を最大限に高め、副作用を最小限に抑えることを目的とした技術を指します。
>
> 【DDSのメリット】
>
> ・薬剤が目的の場所に効率良く届くことで、的確な効果が得られます。また、投薬量の減少も期待できます。
>
> ・投薬が必要な場所でのみ薬剤が働くので、副作用を抑えることができます。　（研究.netより）

この志望理由書の波線部を見てください。

波線部Ａ…アドミッションポリシーで学科が求める「１．生命化学、物質化学、材料科学に関する“研究”や“開発”に魅力を感じ、将来、それらに関連する仕事に携わりたいという希望や意欲を持った人」を踏まえて記述している。

波線部Ｂ…材料・応用化学科が求める人材のリード文にある「材料・応用化学科では、物理と化学をベースとして、原子・分子レベルから物質や生命を深く理解することで…」を踏まえて、「原子レベル」の視点を加え記述している。

破線部Ｃ…材料・応用化学科が求める人材にある「３．情報収集、情報発信、コミュニケーションの手段としての外国語能力の向上の努力を続けることが可能で、幅広い教養を持ち国際的に活躍できる工学技術者・研究者となる意欲を持った人」を踏まえて、「国際基準」「グローバル社会」といった視点を入れて記述している。

800字という短い文章ですので何を書くのかの吟味を要しますが、上記のＡ～Ｃのように「アドミッションポリシー」を踏まえて書かれていることがわかります。皆さんは受験を考えるいくつかの大学の「アドミッションポリシー」を調べてください。それを熟読することで、どういった力（学力・行動・将来の進路など）が求められているのか。それを踏まえて、どういう高校生活を送るのかがイメージできてくると思います。後に、自信が持てる志望理由書が書ける人は、今後の高校生活が充実したものになっているはずです。受験の要・不要に係わらず志望理由書を書いてみることが、時々の自分の志望を確認するよいテスターにもなります。

大学入試小論文について（１・２年生の皆さんへ）

進路指導部　**中 田 輝 保**

大学入試の入試科目として多くの大学が小論文を課しているということは皆さんも知っていることと思います。また、「学力の３要素」として「①知識・技能②思考力・判断力・表現力③主体性・多様性・協働性」が挙げられていることを知っている人も多いかと思います。なぜ各大学では小論文を入試科目として課すのでしょうか？本校２年生向けの小論文講演会で、講師の先生が次のような指摘をなさいました。

・小論文学習の重要性

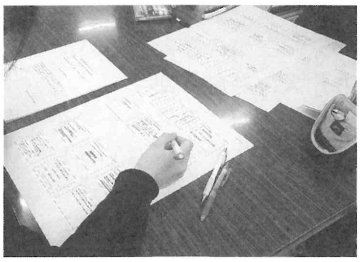
　大量の情報の中から必要な情報を取りだし、その情報の質、信頼性を熟考・評価し、最後に自分の考えを根拠を示して説明する能力はまさしく小論文の評価項目と一致する。

　→大学以降は、情報の吟味、取捨選択等の判断力・思考力が問われる。

　→今後の社会では発信力（伝える力）が重要になる。

　→今後の入試では読解力・要約力・図表読み取り能力が特に問われる。

前述の学力の３要素とも併せて考えると、入試小論文では知識や関心を土台として、考え、それらを表現することが総合的に問われているといっても良いでしょう。



以下に、いくつかの大学の出題例と出題意図とを挙げてみました。「私ならこう書く」という視点を持って見てみてください。なお、紙面の関係でいずれの大学も抜粋ですので、詳しく知りたい人は進路資料室等で調べてください。

例１　神戸大学・法学部（2020年度・後期）

（問）近年、ビッグデータに基づいて個人の行動を予測する試みが行われている。他方でそれに伴う様々な問題についても議論が進められてきている。

　以下の資料【１】～【４】を読み、これらの資料のすべてに基づいて、ビッグデータによる予測の活用がもたらす効用と脅威について、それが誰に対して、どのような影響を与えるものであるかを明示しながら、1000字以内でまとめなさい。

出題意図（大学のコメント）

ビッグデータに基づく予測を様々な分野で利用する動きが近時加速化している。本問は、様々な分野におけるビッグデータの効用と脅威について論じた４つの文献を取り上げて、各分野において、ビッグデータが誰（又は何）にとってどのような効用又は脅威をもたらすかを整理させる。このことを通じて、ビッグデータの活用がいかなる課題に直面しているかを理解させるのが出題の意図である。

（大学ＨＰには「評価のポイント」も記載されています）

例２　佐賀大学・医学部看護学科（令和２年度・前期）

（問）近年、社会では「グローバルな人材」の育成への期待が高まっています。あなたは、グローバルな人材とは、どのような能力を持つ人だと思いますか。また、あなたがグローバルな看護職となるために、大学ではどのようなことに取り組みたいですか。

出題意図（大学のコメント）

（前略）グローバリゼーションの真の意味は、地球を一つの単位、「地球規模」の視点でみたり、発想できることを意味するが、なかには単に海外に出て英語で話ができる人と考えられ、誤解されていることも少なくない。そのような中で、グローバルな人材をどのように捉え、どのような能力が必要と考えるか、あるいは自分が大学生活の中でどのような能力を強化していけばよいと考えているのかを問う内容とし、字数を700字以上800字以内とした。

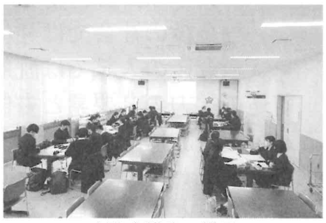
ここまで読み進めた皆さん、やっぱり小論文は難しくて、特別な準備が必要だと思いましたか？また、小論文は受験のためだけに必要なのでしょうか？

入試ですから確かに準備は必要ですね。しかし、入試小論文も実は、授業を含めた日々の生活の延長線上にあるのではないでしょうか。世の中の動きに関心を持つこと、それについて考えること、そして、多くの人たちと対話すること、これらのことの積み重ねによって自分の視野を広げ、多様な価値観を理解することができるのだと思います。「考える」ためには、対比や類比といった、差異や共通性を見出したりする練習を積むことが肝要です。つまり物事を相対化して考える練習です。第二高校の授業では「考える」機会はたくさんあるのではないでしょうか。日常生活でのちょっとした心がけ一つで普遍的な力が身につくと思いますよ。当然、本格的な入試準備もより充実したものになるはずです。出題意図を公表している各大学のＨＰを見ながら、そう感じています。

第二高校の小論文指導は、大きく二つのことが特徴として挙げられます。まず「添削指導」です。例年９月頃から始まり入試直前まで、本校の全ての先生方が担当し、３年生を指導していきます。次に「小論文講座」です。共通テストが終わってから始まるこの講座は、近年の社会問題をテーマにして行われます（詳細は別掲）。外部講師を招いての講座も実施されています。入試は確かに試練かもしれませんが、合否を超えたところにある財産を手に入れることができます。来年度以降もこれまでと同様に「最後まで粘る」二高生であってほしいと願っています。

以下に今年度実際に出題された入試問題をいくつか挙げています。執筆時期の都合上、学校推薦型入試と総合選抜型入試のものしか掲載できていませんが、これからの学習の参考になると思います。これも概要ですので、詳しくは進路指導室等で調べてください。

Webカメラでの講義



小論文講座の様子

大分大学・福祉健康科学部心理学コース
- （課題文を読んで）筆者が考える生き物たちの世界と人間の世界を記述した上で、現代社会における人間の幸せについて、考えを述べる。（800字以内）

岡山大・文学部
- （イグ・ノーベル賞を受けた心理学者の渡辺茂さんの紹介記事を読んで）笑わせ、考えさせる研究とはどういうものか、考えを述べる。

鹿児島大・医学部保健学科看護専攻
- （英文の課題を読んで）ナカムラ氏がアフガニスタンで行った行動を踏まえ、医療人としての保健衛生のあり方についてあなたの考えを述べよ。
- （日本語の課題文を読んで）あなたは「個性教育」と「道徳教育」の現状を踏まえ、二つの教育をどのように考え、どう行動していくか、あなたの考えを述べよ。

九州大・共創学部
- マイクロプラスチックから人間の健康を守るためにどのような対策があるか。
- 統計的生命価値（ＶＳＬ）を用いた費用便益分析の結果を用いて政策評価を行うことへの考えを述べよ。公平性と効率性の面から述べる。（レポート用紙３枚）英語での記述あり。

熊本大・工学部（ＧＬＣ）
- 「外国人が住みやすいＡ市」というスローガンを掲げ、国際化を目指した。これに対して課題と解決策を述べる（条件が５つあり）。（解答用紙２枚）

（令和２年度〈2020年度〉）３学年(57期生)小論文講座・添削指導・模試の流れ

	期日	講座	タイトル	担当	教科など
夏期	７月14日	ガイダンス	小論文講座・添削指導希望者集会・「小論文講座受講届・添削指導願い①」の提出	大塚	進路指導部
	８月22日	小論文模試①（全員受験）学研		大塚	進路指導部
秋期	10月３日	小論文模試②（希望者受験）第一学習社		中田	進路指導部
国公立大共通テスト後	１月19日	ガイダンス	小論文講座・添削指導希望者集会８：50～	大塚	進路指導部
			小論文を書く前に（この時期にやっておくべきこと）		
			講座０「男女共同参画の視点に立った防災出前講座」９：10～９：40	熊本市はあもにい	
		小論文模試③（希望者受験）学研　10：00～11：55		林田	
	１月27日	「小論文講座受講届・添削指導願②」の提出		大塚	進路指導部
	２月２日	講座１	食と環境～経済学部と食料自給率・小学校教員免許と家庭科～	田尻	家庭
	２月５日	講座２	科学→未来→教育→二高 SSH	福田	理科
	２月８日	講座３	健康・運動について	藤川	体育
	２月12日	講座４	社会における時事問題	田中み	国語
	２月15日	講座５	教員養成系「勉強をすることの意味」	野田	数学
	２月19日	講座６	新聞社説・コラムから考える時事問題	林田	地歴公民
		直前指導	国公立大学前期日程試験直前指導	山﨑一・大塚	進路指導部
	３月２日	特別講座	小論文対策特別講座「最後の小論文対策2020」	大堀精一先生(学研)	外部講師
		直前指導	国公立大学中・後期日程試験直前指導	山﨑一・大塚	進路指導部

ヒトは何のために生きるのか？

二学年主任　田嶋隆文

ヒトは何のために生きるのか？

生物学的に回答すると、「子孫を残すため」です。地球上の多くの生物は子孫を残すために生命活動を行いますが、果たしてヒトも多くの生物と同じなのでしょうか。ヒトは子孫を残した後も生き続けることができる数少ない動物です。その答えが、最近になってやっとわかった気がします。ヒトは、「知識を習得」するために生きているのです。

知らないこと分からないことに対して、その意味や理由を知りたいと思うのは、人の根源的な欲求であり、「好奇心」と呼んでいます。ここ第二高校では、「好奇心➡探究活動」といった活動を日常で学ぶことができます。「知識の習得」のツールとしては、実体験の他、新聞や本などの活字がありますが、最近では「スマホ」がその主流となっているようです。

私は、高校・大学と本には全く縁がないヒトでした。しかし、好奇心は他人よりも少し多かったようです。この職に就いてからは本を読むようになり、多くの事を体験しようと思うようになりました。朝起きて三十分ほど新聞を読むことは毎日の日課です。おかげで余計な知識も習得したようです。早朝のガンジス川で感染症を心配しながら泳いだり、夏のモンブラン山頂を半袖短パンで目指しながらも寒さで登頂を断念したり、またインド洋のサンゴ礁で三十尾ほどのサメに囲まれたりと、好奇心からのエピソードは多々ありますが、その全てが「知識の習得」でした。

好奇心から生まれた探究活動、つまり「主体的な学び」は、知識の定着度が高いものです。授業の予習・復習、課題の提出、テーマ学習など、やらされているといった受動的な学習になっていませんか。三学期になって早朝の教室で黙々と勉強に励む姿が少しずつ増えてきました。昼休みや放課後に質問する人が増えてきました。高校生活最後の一年を大事にしようとする気持ち、そして受験生としての意識が少しずつ芽生え、個々の行動や集団の雰囲気が変化してきているようです。

最後に「種の起源」の著者で有名な生物学者チャールズ・ダーウィンの言葉を紹介します。『最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることができるのは、変化できる者である。』

さあ、高校生活最後のステージが始まります。その能力と可能性を開放しなさい。

紙飛行機を飛ばそう

二学年　西本達哉

紙飛行機を遠くまで飛ばす過程を考えてみましょう。

①紙を折って、紙飛行機を組み立て、それを飛ばしてみる。

②実際に飛ばすことによって、上手く飛ぶか飛ばないかが分かる。もし、上手く飛ばなければ、何が原因であるのかを考える。

③折り方を変えたり、使う紙の種類を変えたりして、トライアンドエラーを繰り返す。

④やがて遠くまで飛ぶ紙飛行機を作ることができる。

こんな感じでしょうか。

これを授業、定期考査、模擬試験等の問題演習に置き換えてみましょう（無理やりですが）。問題を解くこと自体は、紙飛行機を飛ばすことだけを指しており、解けるかどうかを試しているに過ぎません。何度飛ばしたところで、折り方や材質に問題があるとすれば、それを改善・解決しない限り、上手く飛ぶようにはなりません。模擬試験等や過去問題演習も同じで、問題に何度チャレンジしたところで、解法を理解する過程を怠れば、同じ箇所で間違えることになります。もちろん、覚え込んでしまうまで演習を繰り返せば、表面上は正答できますが、本番で完全に同じ問題が出る可能性は極めて低いので、類題で正答を得るには、思考過程を熟知している必要があります。つまり、模擬試験等や過去問題演習の肝となるのは、問題を解くことではなく、解くことで見つかった課題を解決することにあります。試験勉強での「実力が高まる」というのは、「解ける問題が増える」と同義であり、そのためには、「解けなかった問題」を「解ける問題」に変えるしかありません。この過程のみが、レベルアップにつながる唯一の道であり、問題を解くこと自体は、この下準備に過ぎないとも言えます。次々に問題を解いていると、勉強が進んでいるように感じるかも知れないですが、紙飛行機を飛ばしまくるだけでは、性能を高めていくことができないのと同じで、一つの問題を解いた後には、浮かび上がってきた課題を解決し、キチンと理解できたうえで、次に進むことが大切です。

二年生のみなさんは、これまでの二年間、様々な教科・科目の授業での問題演習、定期考査、模擬試験などを通して多くの問題を解いてきました。今まで解いてきたものをもう一度見直し、それぞれの課題を振り返り、理解しておきましょう。昔「解けなかった問題」を今「解ける問題」にして三年生になりましょう。きっと紙飛行機は遠くまで飛ぶはずです。

経験→情報、または情報→経験

一学年主任　髙濱俊彦

この三年ほど「階段のぼり」にはまっている。階段というのは美里町にある「日本一の石段」のことである。週に一度は登るので、これまでに二百回近く登った。「何が楽しいのか。」とよく聞かれるが。単純に、体を動かすことは気持ちがよい。また「週一で登ろう。」と考えたのは自分なので、短期間でやめるのもしゃくである。

しかし、毎回同じことをやっていると、さすがに飽きてくる。たまには違うところを歩いてみたいとも思う。どこかよいところはないかと思案しているうちに、ずいぶん前に「宇土半島を越えて三角に抜ける道がある」という話を聞いたことを思い出した。網田～三角までの山越えは、高低差二百ｍ、距離十五㎞ほどの道のりである。

歩いてみると意外に楽しい。なぜ楽しいのかよく分からないので二度歩いてみた。それで分かったことがある。一つは下りの傾斜が緩いので歩きやすい。そして、何よりも見晴らしがいい。下りのあいだ中不知火海の全景が眼前に広がる。

こんな快適な道を今まで歩いたことがなかったので地形が気になり、衛星画像で確認した。そして、深く合点した。宇土半島は風化と侵食が進んで全体が無数の小さな丘と谷から成り立っている。その丘の尾根伝いに道が通っているため、常に視界が開けていたのである。

何を言いたいのかというと、自分自身の経験と情報が結びつくことで、発見や感動や喜びや、とにかく新しいものが生まれるということである。読書をして、強い印象を受けたり感動したりできるのは、自分の中にそれだけの経験の蓄積があるからである。経験が皆無であれば、内容を理解することは難しい。もちろん、読んだ時にピンと来なくても、いろいろな経験をすることで後から分かることもある。従って、情報から経験へと進む道もあることは言うまでもない。

しかしいずれにしても、何かを得るためには、経験と情報の組み合わせが必須である。そう考えると、今年度、コロナ禍の影響で学校行事がことごとく中止、延期になったことが何とも恨めしい。一年生に限ったことではないが、今まで当たり前のように経験できていたことが経験できなかった影響は、小さくないと思う。

ただ、失うものがあれば得るものもある。二学期に実施されたアンケートでは、五十九期生について、「学校で友達と過ごすことが楽しい。」と答えた人の割合がとても高いという結果が出た。長い休校期間を経たことで、「学校に通い、友達と会うこと」の価値・喜びに気付いた人が多かったということであろう。

四月からは二年生としての生活が始まる。クラスが変わり、一年生が入学してくる。二月に実施した学年集会で、「令和三年度は、君たちにすべての学校行事を経験させたい。そのために君たちの協力が必要。」ということを話した。学校行事や部活動の試合を心待ちにしている五十九期生は、それらを一つひとつ経験することで、大きく成長してくれるものと確信している。

現代社会は、情報過多の時代である。行動を起こす前、つまり経験に先立って情報を得るということが当たり前になっている。修学旅行に行けなかった学校が「せめてもの経験に」ということでＶＲ修学旅行を実施した例もあると聞く。しかし、経験のないところに情報だけがあっても得るものは小さい。

勉強に関しても、おそらく同じことが言える。勉強しない人に限って「勉強の仕方が分かりません。」と言う。しかし、自分なりに工夫し試行錯誤した経験があるからこそ、先輩や先生方のアドバイス（情報）が役に立つ。そもそも、やる前から「効率的な学習法」などと言い出すのは、考え方がちまちましてつまらない。自分自身で経験し身につけた学習法であれば、状況の変化にも対応できる。そこに、先達の知恵（情報）が加われば言うことなしである。

高校生の最大の武器はバイタリティーである。目標が目の前にあるとき、高校生は疲れを知らない。加えて、二高生には伝統的に「協力し合うことが得意」という特徴がある。目標に向かって一歩を踏み出し、いろいろな「経験」をするのは自分である。一歩を踏み出す姿勢があれば、同じように頑張っている仲間や指導したくて手ぐすねを引いている先生方から自ずと「情報」は入ってくる。

一週間もすれば、君たちは二年生である。それぞれに目標を定めて準備を始めていることと思う。一度しかない高校生活を悔いのないものとするため、目標へ向けて自ら足を踏み出してほしい。

石段登りでは、日の出前に頂上に着くよう時間を調整している。展望台で汗を拭きながら、朝日に染まる普賢岳や西から明るくなっていく平野を眺めている時、私はいつもとちょっと違う私である。

何を学ぶ？

一学年　池田慎一

突然ですが問題です。「皆さんが中学・高校で勉強してきたことの意味について、あなたの考えを三百字以内で述べなさい。ただし、論点を支える具体例をあげること。」

これは、ある国公立大学の前期入試の小論文問題に出題されたものです。五十七期生の小論文指導で過去の問題を見ていたときに、一番目に留まった題材でした。理由は二つです。①入試制度改革等により、生徒が三年間の高校生活を通して学んできたことや、主体的に考え活動してきたことを評価する方向性にあることを強く感じたため。②問題文の出典である池上彰さんの「学び続ける原動力」、「学ぶということ」の文章がとてもよい。ぜひ二高生のみなさんにも読んでほしい。

なんとなく高校生活を送ることは非常にまずいと思ったので、問題文の内容を要約しつつ自分が考えたことを以下に書きます。

⑴「自分は何も知らない」ことに気づき、いろんな分野の世界に触れよう。もっと知りたいという意欲を大切に。すぐに役に立たないようなことが後になってじわじわと役に立つことはいくらでもある。

役に立たないからやらない、自分の進路には必要ないと決めつけるのは勿体ないです。自分の視野や知っている世界が狭いから気づけないだけです。数学で例を挙げると、複素数の考えを拡張した「四元数」という理論があります。百五十年くらい前の理論ですが、三十年後に現れる「ベクトル解析」の方が扱いやすいことで不遇な時代を過ごすことになります。しかし、この四元数は三次元の自由な回転などを表すことに長けている理論だったので現在ではＣＧや宇宙機、ロボット工学などを始め幅広い分野で重宝されています。

ノーベル賞を受賞した本庶さんは免疫学の基礎研究者です。その知識や研究成果をがん治療にも応用できるのではないかとアイデアを思いつき、がん治療の新たな方法を生み出しました。一つのことにとらわれず幅広い視野と自由な発想を持つことは今後さらに求められることになるでしょう。

⑵自ら新しい知識を吸収したり、自分で最先端の技術をつくり出そうとしたりする能力、社会に出ても生涯にわたって学び続ける力を学校で身につけるべきである。これは第二高校の三綱領どおりです。みなさん三綱領を心に刻み、実践できていますか？変化が激しい現代だからこそ、常に学び続ける姿勢を大事にしていきたいですね。

そして、僕が思う高校で学ぶ意味は、上に挙げた二つの他に「異なる目標を持った多くの仲間とともに学び、部活、学校行事、進路実現など集団で力を合わせてやり遂げる機会が数多くあること。」という結論に至りました。大学は同じ目標や興味を持った仲間と学べるので、それはもう楽しい四年間になります。一方で高校は、多様な目標、考え、頑張りを直接感じることで刺激を受け、その中で人間力が大きく育つチャンスがあると思いました。

大学受験に限らず、第二高校で学んだことや仲間とやり遂げたことを笑顔で語ることができるように。流されることなく、切磋琢磨できる仲間と共に信念と目標をもって進路実現に向けて一歩ずつ前進していきましょう。